

会 告

平成 18 年度農業土木学会講演会の開催について (第 1 報) 	94
第 8 回中央講習会開催について (第 1 報) 	94
第 38 回中央研修会開催について (第 1 報) 	94
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録について (再々)	94
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について (再々)	95
平成 17 年度「研究グループ」助成の認定について	95
平成 17 年度農業土木学会地方講習会テキストについて (再々)	96
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	96
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	97
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します	97
身近にある水利遺構を表紙で飾ろう!!	
「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集	98
北海道支部講習会の開催について 	99
第 29 回関東支部地方講習会および平成 17 年度支部研修会の開催について 	99
平成 17 年度農業水利研究部会研究集会の開催のお知らせ (第 2 報) 	100
第 43 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報) 	101
CIGR 筑波事務局開所記念シンポジウムの開催について	101
農業土木学会論文集第 240 号内容紹介	103
学会記事	106

農業土木学会 (本部) 行事の計画

農業土木学会 (本部) 行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。
 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 2 月 27 日	行事企画委員会	第 8 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・ 創出とその課題 (仮題)	東京大学弥生講堂	
平成 18 年 3 月	行事企画委員会	第 38 回中央研修会 	農地・農業用水等の資源保全 施策の展開方向と農業農村整 備について (仮題)	東京大学弥生講堂	
平成 18 年 8 月 8~11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73 巻 12 号

農業土木学会関連行事予定

平成 18 年 1 月 18 日	北海道支部	支部講習会 	積雪寒冷地における排水と農 道の課題 (仮題)	札幌市	73 巻 12 号
平成 18 年 1 月 26, 27 日	京都支部	平成 17 年度セミナー 		京都市	73 巻 11 号
平成 18 年 1 月 31 日	関東支部	第 29 回農業土木学会関東支部地方講習 会および平成 17 年度支部研修会 	地方講習会: 土地改良事業計画設 計基準・設計「農道」の改定について 支部研修会: エコロード「生き 物にやさしい道づくり」	千葉市	73 巻 12 号
平成 18 年 2 月 3 日	材料施工研究部会	第 43 回シンポジウム 	土構造物における機能の診 断・損傷・復旧 (仮)	神戸市	73 巻 11 号
平成 18 年 3 月	水土文化研究部会	第 3 回水土文化研究部会 	先人達の「水土の知」	農業工学研 究所	

第 74 巻 1 号予定

展望: 甕 滋

小特集: 住民参加型の地域再生

新潟県阿賀野市 (旧笹神村) における土づくりと農村活性化: 粟生田忠雄他

バイオマスタウン構築に向けてのプロローグ: 柚山 義人他

地域資源と人材による町おこし: 谷口 建他

環境共生型圃場整備を契機とした地域再生のシナリオ: 田村 孝浩他

「公民協働」むらづくりの導入期における実態と課題: 粉川 紀子他

技術リポート

北海道支部: 真狩村における地域情報システムの構築について: 門間 修

東北支部: 「かんがい管理」をテーマとした中国吉林省との技術: 郷古 雅春

関東支部: 里地里山における環境に配慮した圃場整備計画について: 荒井 忠雄

京都支部: 施設更新時代に対応した取組み: 米山 元紹

中国四国支部: 南海地震に備える「ため池地震防災調査」で地域防災力の向上を支援する: 恒石 光康

九州支部: トンネル掘削と崩落原因とその復旧工について: 川畑 秀昭

講座: バイオマス利活用 (その 8): バイオマス利活用の展望: 迫田 章義

小講座: パートナーシップ: 千賀裕太郎

私のビジョン: 次の十年へ: 服部 俊宏

平成18年度農業土木学会大会講演会の開催について(第1報)

平成18年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



平成18年度農業土木学会大会講演会は、下記により開催の予定です。

1. 開催期日 平成18年8月8日(火)~11日(金)
2. 主会場 宇都宮大学峰キャンパス
宇都宮市峰町350

(JR宇都宮駅からバス約10分)

3. 講演会 平成18年8月8日(火)~10日(木)
4. 交流会 平成18年8月8日(火)
5. 現地見学会 平成18年8月11日(金)
詳細は続報にてお知らせいたします。

第8回中央講習会開催について(第1報)

農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題(仮題)

地域における新たな取組み

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



平成17年度中央講習会は、下記により開催の予定です。

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
2. 期日 平成18年2月27日(月)10:00~17:00
3. 場所 東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

4. プログラム 基調講演他事例発表 6題程度
* 参加費 有料

第38回中央研修会開催について(第1報)

農地・農業用水等の資源保全と新しい地域づくり(仮題)

ふるさとの資源の再発見

農業土木技術者継続教育認定プログラム



平成17年度中央研修会は、下記により開催の予定です。

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
2. 期日 平成18年3月下旬
3. 場所 東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

4. プログラム 基調講演他

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い(再々)

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対

応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質,

地質・地理, 環境, 地域(農村)計画, 一般, 灌漑排水, 農地造成, 農地整備, 農地保全, 水産土木, 材料・施工, 農業機械, 集落排水, その他

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について(再々)

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

1. 趣旨

農業土木技術者継続教育制度(以下「機構」という。)は本格的な運用開始後4年目に入り、会員数も7,500名と増加してきています。しかしながら、業務の多忙や身近な研修機会の不足などにより、CPD単位取得ができない方が多くおられます。そして、この方々からは、在宅で手軽に参加できる方法を求める声が寄せられており、農業土木学会員等を主体に気軽に研鑽できる教育制度の創設が求められていました。

そこで、学会、機構双方に加入している方のCPD取得機会を増加させることを目的として、農業土木学会誌を活用した通信教育の実施を検討してきました。そして、このたび、本格的な通信教育を視野に入れた試行を行うことになりました。

2. 具体的な方法

(1) 開始時期と試行期間

学会誌に毎号問題を掲載し、メールにて回答する方法で、平成17年10月号より開始し、6カ月間試行を行います。

(2) 参加会員の募集

この試行に参加を希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール(E-mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX 03 5777 2099へ返信願います。

今回の試行が成功し、本格サービスに移行するためには、多くの会員の参加が必要です。周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加を希望します。

今回は試行であることから、参加会員としての経費は不要ですが、本格運用の場合は、実費をご負担いただく方向で、検討中です。

各号ごとに、点数によって異なるCPD単位を付与し、次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

(3) 申込期限 随時受け付けます。

(4) 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

試行部会の部会長は評価委員会幹事長が当たり、部会員は経験、技術力等卓越した者を部会長が指名し、6名程度の体制とする予定です。また、採点やCPD記録の整理などは機構事務局が対応します。

(5) 試行の内容

毎号学会誌に3カ月前の学会誌の報文を主体(必要に応じて4カ月前も活用)に事務局が作成した問題を掲載します。問題は択一式とし、毎回20問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDをが与えられ、継続教育記録として登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

(6) 試行の評価と本格サービスへの移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、必要に応じ修正を加えた上で本格サービスに移行します。

平成17年度「研究グループ」助成の認定について

申請のあった「研究グループ」助成について、研究委員会において審査の結果、下記4グループが認定されました。

1. 代表者：鈴木研二((独)国際農林水産業研究センター) 他

2名

テーマ：農業土木分野における衛星フィールド水文学確立のための基礎的研究

2. 代表者：宗村広昭(島根大学生物資源科学部) 他2名

テーマ：水田排水路を利用した窒素・リン負荷軽減技術の提案

価

3. 代表者：佐藤周之（高知大学農学部）他2名

テーマ：解体コンクリートからの溶出成分の把握と溶出特性の評

4. 代表者：小林幹佳（岩手大学農学部）他2名

テーマ：ヘテロ系における凝集のダイナミクス

平成17年度農業土木学会地方講習会テキストについて（再々）

地方講習会は、毎年各支部で開催し、テキストは学会本部で統一したものを作成し、使用していただいております。その内容は下記のとおりです。

地方講習会に出席できない方で、ご希望の方は、学会あてお問合せ下さい。

テキスト内容

- ・ 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改定の解説
- 1. 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改定について
農村振興局計画部資源課 計画基準班
- 2. 洪水解析手法について
岡山大学環境理工学部教授 永井明博
前九州大学大学院教授 四ヶ所四男美
- ・ 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改定の解説

- 1. 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の改定について
農村振興局整備部設計課施工企画調整室 設計基準班
- 2. 設計基準「農道」改定における論点と配慮事項について
北里大学獣医畜産学部教授 今井敏行
- ・ 新たな食料・農業・農村基本計画の解説
- 1. 新たな食料・農業・農村基本計画と農政改革の推進
農村振興局計画部事業計画課
- 2. 農地・農業用水等の資源保全施設の構築に向けて
農村振興局整備部農村整備課

申込先 (社)農業土木学会
〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年12月末にはVol.3 No.4が発刊予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
 - ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末にはVol 3 No 3が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

なお、2006年1月1日からの投稿先が下記に変更になりますので、ご注意ください。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、

土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から**斯界の権威が**就任しています。
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO(Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA (Japan) , Dr . Ke Sheng CHENG(Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : **筆者全員が国際学会員であること。**

投稿先 : 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。(2005年12月末まで)

新投稿先 : PWE Chief Managing Editor, Dr.Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627 , 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr(will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 (社)農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌 74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4 ページ厳守)
74 巻 2 号 農村地域におけるグラウンドワーク活動(仮)	公募なし	
3 号 地域資源の保全と農業土木	公募終了	
4 号 美しい里づくり 景観法施行を背景として	公募終了	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	公募終了	平成 17 年 12 月 15 日
6 号 大会関連 関東支部(仮)	公募なし	
7 号 湿原・湿地の管理と環境保全(仮)	平成 17 年 12 月 22 日	平成 18 年 2 月 15 日
8 号	公募なし	
9 号 圃場整備と農業生産法人(仮)	平成 18 年 2 月 24 日	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 環境配慮とモニタリング(仮)	平成 18 年 4 月 25 日	平成 18 年 6 月 15 日
12 号	公募なし	

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、73 巻 1 号および農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

74 巻 7 号テーマ：「湿原・湿地の管理と環境保全」(仮)

近年、湿原・湿地の果たす環境への役割が見直されています。たとえば、湿原には保水・洪水調節機能、水質浄化機能、生態系保全機能などがあるとされています。また、水循環のみならず、炭素循環も注目を集めています。それは、地球温暖化問題に関連して、湿原における二酸化炭素等の温暖化ガスの吸収および発生について、まだわからないことが多いからです。

一方、自然の湿原だけではなく、人工的に湿地環境を形成することによって、同様の機能を発揮させようという試みもなされています。水田の冬期湛水・休耕水田の湛水といった農地の湿地的な管理もそうした例に含めることができるでしょう。

このように、湿原・湿地の適切な管理が健全な地域環境の形成にとって重要となっています。そこで、地域の中での湿原・湿地の機能を正しく理解し、適切に管理し、環境を保全する必要性および手法を知るための、研究、技術紹介、事例紹介等の報文を募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取り組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ(1 800 字程度)で、写真を 1~2 枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1 200 字(写真・体裁等含む)

刷り上がり 1 ページ以内(原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集 農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 19 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 75 巻(平成 19 年 1~12 月号)のうち、特

に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然な猛威にさ

られながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し、撮影

してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成 18 年 3 月 31 日（秋季～冬季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

北海道支部支部講習会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



土地改良事業計画設計基準・計画「排水」および設計「農道」の改定に関連して、北海道支部講習会を開催します。基準改定の内容と、排水や農道の計画・設計に関する最近の話題について、積雪寒冷地特有の課題も踏まえながら、講師の方々より解説をしていただく予定です。詳細なプログラムについては次号にてお知らせいたします。

- 1. テーマ：(仮題) 積雪寒冷地における排水と農道の課題
- 2. 期 日：平成 18 年 1 月 25 日（水）9：30～

- 3. 会 場：札幌市・札幌サンプラザ（札幌市北区北 24 条西 5 丁目）
- 4. 参加費用：会員 3,000 円 非会員 4,000 円
- 5. 問合わせ先：
〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 - 3641 FAX 011 706 4145

第 29 回関東支部地方講習会および平成 17 年度支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 1. 課 題
 - (1) 地方講習会：『土地改良事業計画基準・設計「農道」改定の解説』
 - (2) 支部研修会：『エコロードー「生き物にやさしい道づくり」』
- 2. 開催日時および場所
 - (1) 日 時 平成 18 年 1 月 31 日（火）
10 時～16 時 10 分（受付 9：30～10：00）
 - (2) 場 所 千葉県文化会館 小ホール ☎043 222 0201
千葉市中央区市場町 11 2
＜連絡先：千葉県農林水産部耕地課水利・設計室
☎043 223 2847 担当：高橋、白井＞

2. プログラム

- 「地方講習会」
 - 9：30～10：00 受付
 - 10：00～10：10 開会あいさつ
 - 10：10～11：45 土地改良事業計画基準・設計「農道」の改

- 定について
農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室設計基準班課長補佐 進藤 惣治
- 11：45～12：45 昼 食
- 12：50～14：30 設計基準「農道」改定における論点と配慮事項について
北里大学獣医畜産学部教授 今井 敏行
- 14：30～14：40 休憩
- 「支部研修会」
14：40～16：00 エコロードー「生き物にやさしい道づくり」
東京農工大学大学院教授 亀山 章
- 16：00～16：10 閉会あいさつ
- 4. 参加費用 会員 4,500 円 非会員 5,000 円
昼食は文化会館施設内食堂または県庁内食堂等で、各自お取り下さい。
- 5. 申込方法
 - (1) 申込書

第 43 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **テーマ** 土構造物における機能の診断・損傷・復旧 地盤コード 21・土構造物偏に関する動向 (仮題)
2. **キーワード** 土構造物, 性能設計, 機能診断, 機能損傷, 機能復旧 岐阜大学工学部教授 本城 勇介
3. **期 日** 平成 18 年 2 月 3 日 (金) 9:30~16:30 (6) 性能設計推進のための設計審査体制について
清水建設土木技術本部設計部 藤田宗久
4. **会 場** 兵庫県中央労働センター 大ホール(210~320 席) (7) 国営大和紀伊平野土地改良事業における農業用水路の
機能診断とリフレッシュ
大和紀伊平野農業水利事務所長 及川 和彦
〒650 0011 神戸市中央区下山手通 6 丁目 3 28
☎078 341 2271 FAX 078 341 7332
<http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/> (8) 底泥の処理(児島湾やため池)(仮題)
岡山大学環境理工学部助教授
(保健環境センター助教授) 西村伸一
5. **プログラム**
 - ・材料施工研究部会研究奨励賞授与式 9:30~10:00
 - ・講演発表 10:00~15:15
 - ＜土構造物の機能損傷と復旧＞ 10:00~12:00
 - (1) 水利構造物の機能損傷と復旧
京都大学大学院農学研究科教授 青山 咸康
 - (2) 平成 16 年 23 号台風による淡路島ため池被害と復旧 (仮題)
兵庫県淡路県民局地域振興部洲本土地改良事務所
農村計画第二課 岡村 猛
 - (3) 平成 16 年 23 号台風による円山川水系堤防の被災事例 (仮題)
大阪大学大学院工学研究科教授 常田 賢一
 - (4) 豪雨・地震による過去のため池被害 総括と復旧 ,
または, 福井の土砂崩壊」(仮題)
農業工学研究所造構部上席研究官 谷 茂
 - ＜性能設計・機能診断・機能復旧＞ 13:15~15:15
 - (5) 土構造物の性能設計に関する動向
7. **参加費** 4,000 円 当日受付で徴収させていただきます。
8. **申 込** 参加者氏名, 所属機関名, 所在地住所,
TEL, FAX, E-mail, 弁当(代金 ¥1000)希望の有・
無, をお書きの上, FAX もしくは E-mail にてお申
込み下さい。また, 表題として, 「材料施工研究部会シ
ンポジウムの参加」と明記して下さい。
9. **申込先** 〒657 8501 神戸市灘区六甲台町 1
神戸大学農学部 気付 材料施工研究部会事務局
申込み担当者: 井上 一哉
TEL&FAX: 078 803 5853
E-mail: mornel@kobe-u.ac.jp
10. **申込締切** 平成 18 年 1 月 20 日 (金)
11. **宿 泊** 各自で手配下さい。
12. **問合わせ先** 申込先と同じです。

**CIGR 筑波事務局開所記念
シンポジウム「地球的課題と将来の農業工学」
人口増加, 環境ストレス, 限りある資源および生物種の損失の
もとで農業工学が世界に発信できる方策は何かを考える
日本農業工学会**

この度, 国際農業工学会 (CIGR) 事務局が現在の独国ボン市より日本国つくば市に 2006 年 1 月より移動することが 2004 年 10 月の CIGR 総会 (中国) で決定いたしました。

つきましては下記のとおり, 事務局開所式ならびに記念シンポジウムを開催いたします。この開所式および記念シンポジウムにおいて, 現 CIGR 会長および日本側メンバー会員である日本学術会議の方に, 記念講演をいただく予定です。また, 記念シンポジウムには日本農業工学会に所属する農業工学関連学協会による一般講演を予定しています。

記

1. **開 催 日**: 2006 年 3 月 27 日 (月)
2. **開催場所**: 筑波大学大学院生命環境科学研究科公開講義室(総合 A 110 室), 会議室 (総合 A 205 室)
3. **日 程**:
 - 9:00~9:30 参加者登録
 - 9:30~10:30 開所式, (CIGR 会長/日本学術会議会長/日本農業工学会副会長/研究科長の祝辞)(式の中に 20 分位の記念講演を予定)
 - 10:30~11:00 休憩
 - 11:00~12:30 記念講演 (Part 1)(総合 A 110 室)

(1) Luis Santos Pereria (現 CIGR 会長)

(2) 木谷 収 (元 CIGR 会長)

12:30~13:30 昼食会(第2学群 食堂)

13:30~17:00 一般講演会(総合A 110室 100人)

人数が多い場合 総合A 205(35人)でも実施する。

17:00~17:10 閉会の挨拶(次期会長)

5. 執行役員会(13:30~17:00): 生命産業科学専攻教育棟 BS 505, BS 504

6. 参加費: 5,000円(資料代を含め参加者より徴収)

7. 申込:(1) 申込先 筑波大学大学院生命環境科学研究科
食品プロセス工学研究室
☎029 853 6989 Fax 029 853 7496
E-mail:biopro@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

(2) 振込先 三井住友銀行 日比谷支店 普通

口座番号 269440, 口座名 日本農業工学会
岩崎和巳 ニホンノウギョウコウガクカイ
ワサキカズミ

(3) 申込書 ホームページからダウンロードしてお使い下さい。

(<http://www.jsidre.or.jp>)

8. その他:(1) 参加の申込締切り: 2005年12月27日(火)

(2) 講演題目および Abstract 締切り:
2006年1月31日(火)

(3) 発表論文原稿締切り(A4版4枚以内):
2006年2月28日(火)

以上

改訂 農村計画学

(社)農業土木学会

目次

内容紹介

まえがき

第1章 農村の特質と農村計画

1.1 わが国の農村と計画の背景

1.2 農村の特質

1.3 農村計画の歴史

第2章 農村計画の体系と構成

2.1 農村計画の体系

2.2 農村計画の構成と役割

2.3 計画の主体と住民参加

第3章 土地利用計画

3.1 わが国の土地利用の特徴と課題

3.2 土地利用計画の構成

3.3 農業生産環境の整備と土地利用

3.4 農村集落の土地利用秩序の実現

第4章 生活環境整備

4.1 生活環境整備の意義と必要性

4.2 生活環境整備の考え方

4.3 生活環境整備の計画手法

4.4 生活環境施設の整備

4.5 生活環境施設と管理と整備効果

第5章 農村環境整備の保全と管理

5.1 農村環境と資源の循環利用

5.2 水環境の保全と創造

5.3 地域生態系の保全と管理

5.4 景観の保全と形成

5.5 環境管理の方法

第6章 中山間地域の活性化

6.1 中山間地域の現状と課題

6.2 中山間地域への新たな期待

6.3 中山間地域の活性化対策

第7章 西欧の農村計画

7.1 オランダの空間整備計画

7.2 ドイツの農村整備

7.3 フランスの土地利用計画

7.4 イギリスの環境保全政策

7.5 EUの条件不利地域政策

A5判 284ページ 定価 4,200円(内税・送料学会負担)
会員特価 3,500円(内税・送料学会負担)
[会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業土木学会
TEL 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494